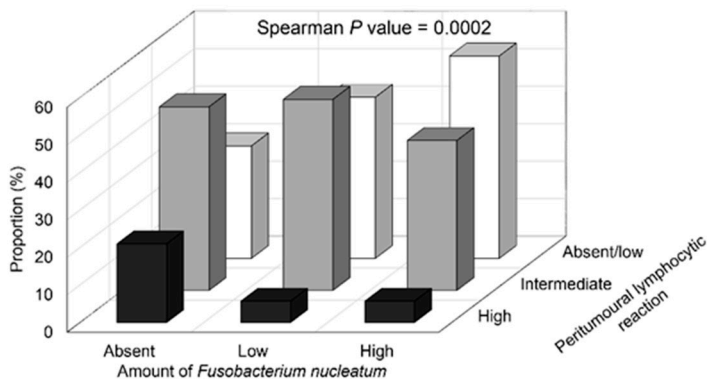


【目的】 腫瘍微小環境内において癌細胞は微生物や免疫細胞と複雑なネットワークを形成していると考えられ、癌研究ではそれらを統合的に解析する事が重要と考えられる。本研究の目的は、当科の消化器癌データベースを対象に、腸内細菌・腫瘍免疫・がん代謝に関する網羅的解析を行い、消化器癌の Precision Medicine を開発する事である。さらに様々な臨床情報・生活情報との統合解析も行う事で、癌治療のみならず癌予防法にも寄与する事を目指す。

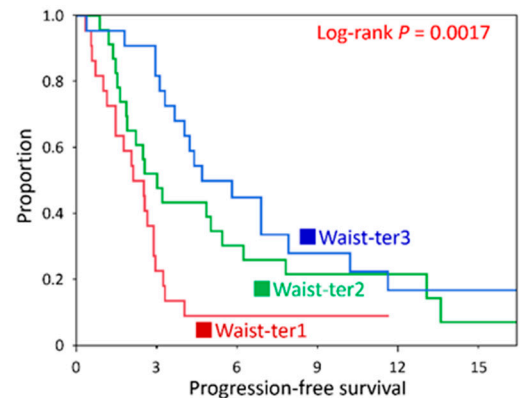
【方法】 1. 食道癌切除例を対象に腸内細菌 (*Fusobacterium nucleatum*)、腫瘍免疫 (腫瘍細胞における CD274 (PD-L1)、PDCD1LG2、IDO1 の発現レベル解析、follicle lymphocytic reaction、peritumoural lymphocytic reaction、stromal lymphocytic reaction、tumor-infiltrating lymphocytes の浸潤程度評価、腫瘍最深部における CD8 陽性細胞数、FOXP3 陽性細胞数、PDCD1 陽性細胞数) の評価を行い、関連解析を行った。2. 免疫チェックポイント阻害剤による治療を施行した切除不能、再発食道癌を対象に、治療前の体組成を Ziostation2 にて評価、様々な血液検査データと共に治療効果予測因子の解析を施行した。

【結果】 1. *Fusobacterium nucleatum* は進行度と有意に相関した。また、peritumoural lymphocytic reaction と有意な逆相関を示した。多変量解析の結果、*Fusobacterium nucleatum* は宿主による免疫応答 peritumoural lymphocytic reaction と有意な逆相関を示し、*Fusobacterium nucleatum* が腫瘍免疫を抑制する可能性が示唆された。2. 免疫チェックポイント阻害剤による治療を施行した食道癌において、治療前の腹囲が大きい症例では治療効果が有意に良好であり、予後も良好だった。以上より、治療前の体組成が免疫応答と関連する可能性が示唆された。

本研究で得られた結果



Kosumi K Br J Cancer 2023



Progression-free survival	Months					
	0	3	6	9	12	15
Waist-ter3	22	20	10	6	4	3
Waist-ter2	23	12	8	4	4	2
Waist-ter1	22	6	2	2	1	1

Kosumi K Ann Surg Oncol 2024

Fusobacterium nucleatum & peritumoural lymphocytic reaction

腹囲と治療効果